この度は弊社のトランシーバー、DR-735 をお求め頂き、誠に有り難うございます。

「DR-735 Clone Utility」は別売の ERW-7（USB ポート用）ケーブルを使って DR-735 とパソコンを接続することでお使いになれます。

はじめに：

本プログラムはフリー・ソフトウェアであり、いかなる保証も行いません。プログラムをご利用になることで発生したハードウエア・他のソフトウェアやデータへのダメージなど弊社は一切補償致しかねますので、ご了承下さい。本プログラムの著作権はアルインコ（株）が所有しますが、商業利用を目的としない限りご自由にお使いいただけます。

主な機能：

・ボリュームやスケルチレベルなどのデフォルト値の設定
・機能やセットモードのパラメーター設定
・メモリー周波数データの入力とバンクの関連付け
・ネームタグの編集
・編集した上記データの保存・書き換え・他の DR-735 へのクローン

注意：

＊ 当ソフトは、Windows 7, Windows 10 での動作確認を行っております。共に管理者権限でインストールを行ってください。

＊ バグのご連絡は edomestic@alinco.co.jp で承りますが、操作方法についてのご連絡やお問い合せはご容赦ください。まずソフトをインストールして内容をご覧のうえ、お使い頂けそうであればケーブルをお求め下さい。

＊ もし書き込み・読み込み中にエラーやフリーズなどが発生しても、本体・ソフトとも再起動すれば初期状態に戻りますが、保存していないデータは失われ、回復できません。新しく作ったデータで書き込みをする際は、先に既存の状態を読み込んだバックアップ用ファイルを保存してから書き込み操作してください。

インストール・アンインストールと接続について：

＊ ダウンロードするファイルはインストーラー形式です。ダウンロードした ZIP ファイルを解凍して、できたフォルダーの中の Setup.exe をクリック、指示に従って管理者権限でインストールしてください。終了後、デスクトップにショートカットアイコンができます。

＊ アンインストールはコントロールパネルの「プログラムの追加と削除」から行って下さい。

＊　本ソフトのアップデートを行うときは、旧バージョンを必ずアンインストールしてから行ってください。
＊　初めて ERW-7 を使うときは下記のページを参照して、ERW-7 が搭載する VCP デバイス用のドライバーソフトがパソコンに入っているかどうかご確認ください。
http://www.alinco.co.jp/division/electron/softdl03.html
＊　プログラムを起動します。電源を切った DR-735 に、ERW-7 を背面の左側のスピーカージャックに接続します。ERW-7 に付属する変換プラグは使いません。
＊　DR-735 の電源を入れ、プログラム画面の右側にある COM のプルダウンで COM ポートの設定を行ってください。ウインドウズのデバイスマネージャーのプロパティで“ポート（ＣＯＭとＬＰＴ）”を参照、ＵＳＢ　serial port(COM*)と書いてあるのが ERW-7 に割り当ての COM ポート番号です。ケーブルを抜くなどすると COM ポート番号は変わることがあります。
＊　COM ポート設定の下にある Read ボタンをクリックすると、画面上のプログレスバーが緑に光り、現在の DR-735 の状態がプログラム上に読み込まれます。COM ポート設定などに問題があると、ERR 表示が出ます。COM ポート番号、ERW-7 をつないだ背面のジャックが向かって左側かどうか、管理者権限でインストールしたか、などをチェックしてください。説明書に「ユティリティソフトを使うときはクローンモードにする」旨の記述がありますが、クローンモードにはしないでください。

操作方法について：

　機能設定の項目は無線機で出来る操作と同じで、プルダウンで好みのパラメーターを選びます。それぞれのパラメーターの内容は取扱説明書をご参照ください。読み込み、書き込み中（プログレスバーが表示中）は、操作できません。L mode, R mode, L band, R band などの L と R はそれぞれ左側、右側を指します。初めて使うときは数行の簡単なダミーデータを作って読み書き、Selected 機能がどう動くかなど練習して理解してください。

＊　書き込みはツールバーの Write ボタンをクリックしてください。プログレスバーが表示され、DR-735 の液晶に数字が表示されます。コピーが終わると自動的に再起動します。編集が終わったら ERW-7 を抜いてください。
＊　Read ボタンの下の Selected にチェックを入れるとメモリーは選択している行だけを読み込みます。最初に新しいデータを読み書きするときは外しておいてください。編集中に「あの機能、あのチャンネルだけ編集しなおして上書きしたい」「編集内容が分からなくなった、機能部分だけ素早く読み直したい」というようなときに素早く読み書きできるので便利です。（設定、色、VFO, DTMF 関連情報は常に更新されます）
＊　ツールバーの インポート・エクスポート機能を使うとＣＳＶを扱う作表ソフトなどでメモリーチャンネルデータの編集ができます。

メモリータブの操作：

通常メモリー、L(左専用)メモリー　R（右専用）メモリー、d（デュアル）メモリーの順で編集できます。デュアルメモリーは左右２つの設定が必要なので同じチャンネル番号がペアになっています。

＊　表の行をダブルクリックすると詳細設定画面が表示されます。設定が終わったらＯＫをクリックします。

＊　周波数は半角数字で入力してください。MHz の区切りは半角のコンマかピリオドを使ってください。DR-735 がサポートしないステップの周波数を書いても、無線機側で四捨五入した一番近い数字で入力されます。（例：144.0003 と書いても 144.000 でメモリーされる）

＊　バンド以外の周波数を書くと警告窓が表示されます。桁は、例えば 144.200 と書かなくても 144.2 と書いて OK を押せば自動的に 144.20000 でセットされます。

＊　name 欄は半角大文字のローマ字と半角の数字、記号のみで６文字まで書き込めます。

＊　bank は編集したメモリーをバンクに入れるときに使います。

VFO,カラー、DTMF タブの操作：

＊ VFO は、VFO モードのデフォルト値を設定できます。DR-735 で通常のリセットを掛けるとこの設定は消えます。

＊ カラーはアイコンをクリックしてパレットから選べます。但しパレットの色と実際の調光色は大きく異なります。セットモードの色設定をデフォルト（スタンバイ CL0）にして、Selected にチェックを入れて CL0 で調光、それを書き込めばすぐにどんな色になるのか見ることができます。

＊ オートダイヤラーは DTMF 音の自動送出です。米国などのリピーターで、オートパッチ（電話接続）などの機能にアクセスするため頻繁に使われています。DTMF がサポートする数字と記号を最大１６桁まで、半角で入力します。（説明書 P.64 に詳細）

機能タブの操作：

編集できる機能とセットモード項目をプルダウンで選びます。手動で上級セットモードにしていなくても、上級セットモードの項目を編集したら自動的に上級セットモードが使えるようになります。機能の内容は説明書を参照してください。

トラブルシュート：

上手く動かない場合のほとんどは COM ポートの設定が出来ていないか、ケーブルを抜き差ししたことでポート番号が変わっているケースです。ウインドウズのコントロールパネルからデバイスマネージャーでポート（ＣＯＭとＬＰＴ）のプロパティに表示されるＵＳＢ　ＳＥＲＩＡＬ　ＰＯＲＴ（ＣＯＭ＊）の番号をソフトのＣＯＭポート設定に合わせてくださ

い。他、ＥＲＷ－７のドライバーソフトの入れ忘れ、プラグを右側に挿している、などをご確認ください。

＊当ユティリティは、DR-735をより快適にお使い頂くためにご提供させて頂いておりますが、あくまで無償のオプションであり、製品のように弊社が責任を持ってメンテナンスやサポートを行う対象のものではありません。
＊　弊社では、お客様のご依頼のデータを編集・書き込みすることは有償サービスとしても一切行っておりません。

以上

アルインコ（株）電子事業部